

大江首席交渉官代理による記者会見の概要

日時：7月15日（火）17：35～17：45

場所：米国ワシントンDC ナショナル・プレス・ビルディング

【冒頭発言】

昨日今日と二日間、カトラ一次席通商代表代行と協議し、先ほど協議を終えた。前回の東京での会合もそうだったが、中身のある建設的な協議ができたと思う。中身についてはお話できないが、雰囲気をお伝えしたい。オバマ大統領の訪日時に8合目まで来たと申し上げた。その後、アメリカのステークホルダーが一時騒いでいたために自分とカトラ一次席通商代表代行が会えない時期が続いたが、シンガポールで協議を再開し、その次の会合が前々回のワシントンにおける協議であった。その際、一時的に絶望的になる瞬間もあったと申し上げたことを覚えているが、お互いの立場の差が大きく、8合目までは来たが霧が濃くなかなか頂上が見えないという状況であった。前回の東京での協議、また今回の協議で少し霧が晴れてきたかなと感じる。交渉は最後の瞬間になると、双方が譲歩しあい最後の着地点を見つける作業が必要になることもあろうが、今回と前回は、双方が譲歩しあうのではなく、双方の主張についての理解がお互いに深まり、議論を進めた結果、双方の懸念について如何に対処できるかを考える作業を行った。共同作業という表現が適切だと思うが、双方が互いにある距離を縮めるためにはどういう道があるかを共同作業を通じて探ることを通じて、見晴らしが良くなってきたのかなと感じる。ストレスやフラストレーションが溜まることはなく、気持ち良く交渉できた。次回の交渉は、8月4日および5日にワシントンで行う予定。米国が東京に来る用意はあったが、その日程は日本側の都合が悪かったので、再度ワシントンで交渉をすることになった。次回も進展があると思うが、次回で最後までいくかということ難しいと思う。

【質疑応答】

（記者）

西川議員とフローマン通商代表との会談も本日開催されたが、カトラ一次席通商代表との交渉に影響はあったか。

（大江代理）

西川議員はこの後、午後7時から、西川議員自身がここで記者ぶら下がり会見を行うと承知しており、その際に質問していただきたい。我々の協議は淡々と続けられた。

(記者)

今後のスケジュールにつき、鶴岡首席交渉官は東京に戻られた後、11月のAPECまでになんとかまとめたいというような話をしているようだが、日米協議はどのくらいの時期を目処に進めていきたいか。

(大江代理)

交渉ごとなので、いつまでとは言えないが、我々もいつまでも交渉を続けているわけにはいかない。見晴らしは良くなってきたが、最後は難しい交渉になると思う。ここ数ヶ月のうちにまとめたいと考えている。他の国との協議も進めているが、日米の交渉をまとめないと他の国との協議も結局まとめることができないので、可能な限り早期にまとめたいと思っている。

(記者)

5項目の中で今回どのあたりが焦点になったか。セーフガードの問題と個別の品目に焦点を当てた議論があると思うが。

(大江代理)

中身はお話できないが、セーフガードの問題は勿論議論したし、それが今回の議論の中心点の一つであった。セーフガードの問題だけでなく、残っている品目についても議論した。

(記者)

4月の日米首脳会談が8合目だとすると、現在は9合目か。

(大江代理)

9合目と言うにはまだ早いかもしれないが、霧が晴れてきたので、一時見えなくなっていた頂上が見え始めたということだと思う。

(記者)

ステークホルダーにつき言及があったが、ステークホルダーは現在もまだ厳しい要求を続けているように見えるが、カトラ一次席通商代表代行との協議の場でも、ステークホルダーにつき話題になっているのか。

(大江代理)

米国側は、ステークホルダーの要求が厳しくなっていることにつき毎言及する。ある意味では、ステークホルダーの要求はますます強くなっている。前回および今回の協議ではお互いが譲歩したのではなく、お互いの理解が進んだことにより見晴らしが良くなった。今回も農水省のチームと一緒に来ているが、大澤部長の下、若い方々が土日返上して作業し、いろいろなシミュレーションをしている。その努力がお互いの理解を深める原動力になっている。

(記者)

これまでの会見で指摘されていた「隔たりが大きい」との表現を今回は使われていないが。

(大江代理)

隔たりはまだ大きい。隔たりが譲歩により縮まっているわけではないが、セーフガードについては、どこでどのような知恵を絞ったら解に近づくのか、ということについて見通しが少し立ってきた。個別の物品については、それだけではなかなか進まないの、やるべき仕事は多く残っている。

(記者)

譲歩と共同作業は違うのか。

(大江代理)

ゼロサム・ゲームになると、どちらかが譲歩しないと交渉がまとまらないことになるが、共同作業の部分は、ゼロサム・ゲームというよりは、双方が共同作業することにより双方の懸念を払拭できるような道を模索する作業である。

(記者)

日米間の協議につき、最終的には閣僚の政治的判断を仰ぐ必要があると思うが。

(大江代理)

私のレベルで話が済むのであれば、私のレベルで交渉をまとめたい。ただ、どうしても不可能であれば、最後は閣僚の政治的判断を仰ぐことになるだろうが、当然に最後は閣僚間が協議しなければ交渉がまとまらないということではない。

(記者)

協議の際、カトラ一次席通商代表代行から中間選挙の日程等、政治的状況を気にする発言はあるか。

(大江代理)

ない。反対に、なぜ日本は中間選挙をそこまで気にするのかという発言はあった。

(了)